
◇ 吉 谷 一 孝 君

○議長（山本浩平君） 代表質問を続行いたします。

9番、かがやき、吉谷一孝議員、登壇願います。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 9番、吉谷一孝でございます。会派、かがやきを代表いたしまして平成26年度町政執行方針基本姿勢について代表質問を行います。

この2年間は町立病院、バイオマス燃料化施設、税収の落ち込みなど財政再建に追われた2年だったように感じます。しかし26年度からは基本姿勢の中で述べられているように将来の展望を軌道に乗せる重要な年、持続可能なまちづくりを進めるための大きな期待と道筋を示し協働・連携による地域実践に臨む年としています。まさしくこのことは町民が戸田町長に対して期待していたことそのことを実行する年だと思えます。

そこで質問項目であります。町長が臨む基本姿勢について3項目6点について見解を伺います。まず基本姿勢の活力あるまちづくりはまちを活性化する重要施策であると考えており、産業の活性化から地域経済が潤い持続可能なまちが形成されるものと捉えております。そこで質問項目であります。

1項目めですが、地域実践を基本姿勢とし協働・連携による活力ある産業のまちづくりを経済基盤の確立や産業間連携、行政運営戦略の強化などにより進めるとしているがどのような施策で取り組むのか伺います。

次に基本姿勢の快適に暮らせるまちづくりについてであります。これまでも協働のまちづくりは展開しており住民協働や行政協働の双方が相まって協働のまちづくりを深化させることは重要な施策と考えます。

2項目め、安全・安心で快適に暮らせるまちづくりを町民一人一人が自分たちでつくり、より暮らしやすい地域にしていくために参加と協同を実践するとしていますがどのような施策で取り組むのか伺います。

次に基本姿勢の地域創造のまちづくりについてであります。本町は人・自然・文化などの地域資源が豊かなまちであると捉えており、そのことをどう地域力に結びつけていくのが課題であると考えます。そこで3項目めの将来につなげる地域力創造のまちづくりを地域資源である文化・自然・人などの潜在能力を地域に結びつけて最大限に活用する考えであるが次の3点をどのような施策で取り組むのか伺います。

1点目、民族共生の象徴となる空間整備をどのような施策で結びつけていくのかを伺います。

2点目、北海道新幹線を見据えどのような施策で結びつけていくのか伺います。

3点目、過疎法の活用と地域コミュニティの活性化をどのような施策で結びつけていくのか。

以上の項目について町長の見解をお伺いいたします。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 吉谷議員の代表質問にお答えいたします。

26年度町政執行方針の基本姿勢についてのご質問であります。1項目めの協働・連携による活力あ

る産業のまちづくりについてであります。地域経済の活性化を進める上で協働・連携の機運が必須であり各産業が一体となること、産業間のさらなる連携が必要と考えております。そのためには地産地消の推進を図る計画策定、商業や観光業などを含む総合的な産業振興の取り組みを展望する（仮称）産業振興計画の策定に取り組みます。

2項目目の安全・安心で快適に暮らせるまちづくりについてであります。誰もが住みなれた地域で安全・安心に暮らせる社会の実現には日ごろから個人・地域・行政などそれぞれの役割を認識し互いに支え合うことが重要となっているものと考えております。しかし現状においては身近な町内会も高齢化などで活動が困難になるなど地域コミュニティにおける課題が多く存在しております。このため町といたしましては総合計画などを着実に推進する中において、町内会活動などと連携した参加と協働を実践することによって自分たちの地域は自分たちでつくるとの考えに立った安全・安心で快適に暮らせるまちづくりを進めてまいります。

3項目目の将来につなげる地域力創造のまちづくりについてであります。1点目の民族共生の象徴となる空間整備をどのような施策でどう結びつけていくのかについては、国では象徴空間の開設、公開を32年度とする工程のもとに現在整備及び管理運営の基本方針の取りまとめを行っており夏には閣議決定が行われる予定です。また26年度末には博物館の基本計画と公園的土地利用の基本構想の策定が予定されています。一方町では昨年11月象徴空間の効果を最大限高め地域経済や地域活動の活性化につなげるための官民一体となった取り組みとして、町内24団体で構成する民族共生の象徴となる空間整備による白老町活性化推進会議を設立しました。今後は4つの部会、情報推進・活性化推進・基盤整備推進・教育学習推進での検討をベースに、推進構想及び推進プランを策定しその施策を中心に具体的取り組みを進めたいと考えております。

2点目の北海道新幹線を見据えた施策については、27年度末の北海道新幹線、新青森、（仮称）新函館間の開業が予定され、さらなる交流人口の増加が見込まれます。そのために交通アクセスや観光周遊ルートを確立し本町の食や文化等の特色を生かす情報発信機能とネットワーク化の強化に取り組み、さらに北海道新幹線日胆地域戦略会議や登別洞爺広域観光圏協議会等の広域組織と連携しながら観光消費額向上に結びつけていきたいと考えております。

3点目の過疎法の活用と地域コミュニティの活性化をどのような施策でどう結びつけていくのかについては、過疎法の活用を図るため白老町過疎地域自立促進計画を策定し町の創意工夫による積極的施策を実施し総合的かつ計画的な自立促進のための施策を推進する必要があります。例えば地域コミュニティの維持活性化について住民自身が地区の現状を知り地区の問題をみずからの課題として捉え地区の将来像を描いていく必要性から、地域自治組織が行う自主的・自発的活動の実施などについては過疎対策事業と位置づけることで財政負担の軽減と地域コミュニティの活性化が結びついていきます。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 2問目になります。

さきと同僚議員からも同様な趣旨、同じような質問等もあるかと思いますが、今後の白老町の未来を見たときにこの施策、この年度というのは町長が重要な年と位置づけておりますように私も大変重

要な時期だと思っておりますので、重複するかもしれませんが2問目質問させていただきたいと思っております。

活力ある産業のまちづくりについてであります。行政組織に営業戦略を設置したが港湾連携など内部と外部の強化をすべきではないかと思っておりますがその点についての見解を伺います。

六次産業の推進から見えてきた課題は何か、またそれを解決する方法や手法はあるのかお伺いいたします。

本町産業の根幹をなす中小企業への支援策の考え方はありますか、お伺いいたします。

快適に暮らせるまちづくりについてであります。1つ目、町民が安全で安心して暮らせるまちにはどのような理念で目指すのか伺います。

全国的に人口減少が進む中、一定の人口規模でも快適なまちであるべきと考えるがそのためには近所が支え合える仕組みが必要と考えるがその見解をお伺いいたします。

地域コミュニティに課題が多くあるとしているが町長公約の地域担当者職員制度を活用する考えはありますか。

3つ目、地域力創造のまちづくりについて、民族共生の象徴となる空間整備は国が進める事業であります、開設までにその周辺の環境整備や地域経済の活性化が見込まれる施策を取り組まなければならないと考えます。そこで将来につなげる地域力創造の考えをどのように描いているのか。

2つ目、北海道新幹線についてであります。白老町単独での取り組みには限界があると考えます。広域的な手法で自治体連携が必要と捉えるのがいかがでしょうか。

過疎地域自立特別措置法の改正により本町も優遇措置等を活用できると考えますがハード事業やソフト事業などをどう盛り込み、どのようなスケジュールで法の適用となり事業化できるのかお伺いいたします。

○議長（山本浩平君） 順次、再質問に対して答弁を願います。

中村町民活動担当課長。

○生活環境課町民活動担当課長（中村英二君） 2項目めの安全・安心のために関する取り組み、どのような理念を持って取り組むかということのご質問であります。地域の主役はあくまでも住民の皆様そういう考えで自らが地域を守ることが大切なことかと考えております。本町はこれまで他の自治体に誇れる先駆的なまちづくりを進めてきており情報共有や町民参加による協働のまちづくりの仕組みを整えております。このような中で特に町内会におきましてはご質問のとおり地域コミュニティのあり方こういったものについて十分現状認識をしており検討を進めており、日常的にも地域では防災対策、高齢者の見守り活動、また福祉のふれあいチームの拡大こういったような町内会を中心に自分たちの地域を守るという取り組みをしていただいております。町といたしましてもこれら町内会の活動と連携を図りながら協働のまちづくり研修会でありますとか地区コミュニティ計画の策定、こういったものを多くの議論の場においてたくさんの皆様の参画をいただき地域ぐるみで助け合い、支え合うこういった意識を高める活動を高揚し実践活動を進める考え方であります。

最後に地域担当職員制度との関係はどのようにということのご質問であります、このような状況を踏まえて地域担当職員制度にあつては、まず役場内部の横断的な実施体制、考え方の統一、協働の意識の高揚こういったものに現在取り組んでおります。先ほど申しました地域での各種会合、話

し合いの場合こういったものの活動の地域とのパイプ役ですとか支える促進役としてこの地域担当職員でこれらの活動を促進していく考え方で安全・安心で快適に暮らせるまちづくりを目指す考えであります。

○議長（山本浩平君） 大黒営業戦略担当課長。

○営業戦略担当課長（大黒克己君） 私のほうから協働の連携による活力ある産業のまちづくりという中のまず営業戦略という部分でのご質問でございます。25年度営業戦略グループということで3月まででありました東京事務所を廃止した上での活動ということでさまざまな首都圏での活動も含めていろいろな企業誘致のほか販路拡大ですとか観光PRですとかこういった部分を活動展開してまいりました。その中でもいわゆるポートセールスという部分におきましては企業誘致の際にも港があるまちということでの優位性を大きくPRしてきておりますし、その辺の情報も港湾グループとの連携を図りながらさまざまな活動をしているというような現状でございます。

それからもう1点、六次産業化のお話がありました。推進の課題ですとか解決する手法というお話でございます。25年度も観光連携型六次産業人材育成事業というものを行ってまいりましたが、やはりいろいろな問題というのが出てくるのですけど大きな問題として私のほうで捉えているのは、一次産業とそれから二次、三次の産業のマッチングという部分がなかなかスムーズにいかないと。それはそれぞれの考え方がありまして、それが最終的にどこに向かうのかという方向性が両者合意のもとに見出すというところがなかなか難しいのかと。そういう中で町もいろいろと調整をさせていただきながら事業を進めてきておりますけど、これについてはなかなか単年度でできるというものではなくて、時間をかけながらそれぞれの意見を調整しながら一次、二次、三次の結合という部分を考えていかなければならないというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（山本浩平君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 中小企業との関係の支援でございますけれども、中小企業につきましてはさまざまな業種があるということでありますのできめ細かな対応が必要というふうに考えてございます。引き続き各種の補助融資の支援のメニューの提供とか、それからイノベーション的な新たな社会的価値を深めるような取り組みを強化していきたいというふうに考えてございます。

○議長（山本浩平君） 高橋企画担当課長。

○企画担当課長（高橋裕明君） 私の方からは地域力創造のまちづくりについてお答えします。

まず1点目の象徴空間につきましては、いずれにしてもまず地域力創造のまちづくりにつきましては、まち全体の実践力の高まりで地域力というものを高めていこうという姿勢でございます。それに向かうために現在町が今ちょうど活性化を目指すのによい機会にあるということをつかまえて象徴空間の整備、新幹線それから過疎法とコミュニティーの活性化というものをしております。

象徴空間につきましてはさきに答弁しておりますように推進会議を設置しまして、その中で情報それから活性化基盤整備、教育、学習という4つの分野を中心に町の活性化を検討していく会議体によって将来の活性化に結びつけていくということでございます。これにつきましても町全体24団体が入っておりますが今後さらにその輪を広げながら全体に広げてまいりたいというふうに考えております。

新幹線につきましてももう2年ほどで北海道上陸ということにございまして、旅行客の動向が変わ

ってくるという機会を捉えまして集客増を図っていくということでございます。議員がおっしゃられましたように、これも白老単独だけではなくて胆振もしくは日胆という圏域で大いにPR・誘致を行いたいというふうに考えております。

過疎法につきましては今国会で提案されて法改正があった場合には追加公示によって白老町が地域指定されるであろうということでございますが、この過疎法につきましては当然その名称どおり人口が減少して活力低下、生産機能ですとか生活環境、整備が低下してということ踏まえて、この法によって地域の活性化、自立促進を目指すということでございますので、その趣旨から行う事業については優遇措置があるということでございます。日程、スケジュール的なものでございますけれども、まず法改正で追加公示を受けましたら自立促進計画策定に着手しまして、それで議会の議決を受けて、その後国に提出するというようになっております。その後事業着手したもののついて過疎債等の優遇措置が受けられるということでございます。

以上でございます。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 1点目の六次産業の手法の話なのですが、午前中にもちょっとお話をしたのでつけ加えてお話をさせていただきたいと思っております。白老町には先ほどもお話したようにさまざまな資源がありますのでそれを六次産業化に結びつけていきたいと大卒では思っております。その中でも今食材王国しらおいとも連携をとりながら、今までは生産者等々が余り積極的ではなかった部分もありますので、この辺は生産者も含めて白老町の食材のブランド化を図っていきたいというふうに考えております。

それと近所で支え合う仕組みづくりの質問なのですが、地域担当職員制度もあわせて、何回もおっしゃっているのですが町内会や高齢化になりましてなかなか地域のコミュニティーがとりづらくなってきた社会ではありますが、ここは26年度から始まる地区コミュニティー計画を策定しまして、ここに地域担当職員制度をプラスして今までなかなか行政には届かなかった声もここで拾っていききたいというふうに思っております。幅広く声を拾っていききたいのはやまやまなのですが職員数等との関係もありますので今できるところから一步一步確実に広げていきたいというふうに思っております。

○議長（山本浩平君） 9番、吉谷一孝議員。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 9番、吉谷です。

まず白老町活性化推進会議、4つの部会があってこれから進めていくというふうにお伺いいたしました。この推進会議はどこの課が担当して進めていくのか、その辺についてお伺いをしたいというふうに思います。先ほど町長のお話にもありましたように空間整備に当たっての町内における経済の活性化に対する期待というのは町民はものすごく大きく持っているというふうに思います。しかしながら行政の仕組みとしてなかなか担当部署ではない場面ではスムーズにしていけない部分もほかの部分でもありましたが、行政が横断的にかかわることによってそれを進めていくというお言葉がありましたようにそういったことを念頭に置いて会議を行った中、なかなか思ったようにみんなの意見が反映されないということがないように、どうやったらそのことが進むのか具現化されるのかということをもまず念頭に置きながらこの会議を進めていただきたいというふうに思います。

最後になります。総括して町長にお伺いをしたいというふうに思います。重ねてになりますが、26年度は人口減少、少子高齢化の進展、地域経済の低迷、雇用の場の縮小、暮らしの安全・安心の確保など問題が山積しておりますが、確かな展望と地域力の発揮の年として、ただいま議論してきた町長の町政に臨む3つの基本姿勢でまちづくりを進めることが理解できました。ことしの10月には町長の任期も残すところ1年になる、いわば集大成の年でもあります。そこで強い意志とリーダーシップをもって将来のまちづくりに大きな期待と道筋を示し、協働と連携による地域実践から地域力創造の元年を築くべきと考えますが、今一度町長の見解を伺って、会派かがやきの代表質問を終わります。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） 1点目、組織の話なので私のからお答えさせていただきます。昨年9月に象徴空間のスケジュールが発表になったと、そういうようなことから今後、昨年でいえばあと7年後白老町としてどう受け入れることができるのか、そういうことを踏まえながら全町的な受け入れ体制の組織が必要だというようなことで組織化に動きました。

全体のまとめということでは役場が中心になってということ、投げかけをしまして、役場の中ではないということ、例えば大きなまちづくりというような視点から総括的には企画課が担当いたします。ただ先ほど言いましたとおり4つの部会でそれぞれの部会の役割の中で関係する部署がございますので、例えば情報推進部会の方ではアイヌ施策推進室が象徴空間の国の動き等々を押さえていますので、そういう中では情報を受信・発信するというようなことでアイヌ施策推進室が担当しております。それから活性化推進部会の方では商工あるいは観光、産業、そういうようなことがかかわってきますので、役場の組織としては産業経済課あるいは営業戦略担当、ここが部会の中に入るというようなことでございます。それと基盤整備の部分では役場の方では建設課が担当すると。それから教育学習推進部会の方では教育委員会が担当するというようなことで、各部署連携した中で横断的な組織体制ということで役場の方にも各部署が入りました。組織体系としては町長をトップにした組織なので、事務局の方には先ほど総括的に企画といたしましたけれども、その中には私も入りまして、全町的な目で業務が進行できるような体制をつくっていきたくて、先般もう既に立ち上げた後に幹事会、それと理事会を開催していますので4月に入りましたらそれぞれの部会をこれから開催して、自主的に4月から部会の中で協議していこうというふうに今スケジュールを立てております。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 26年度の町政執行方針の決意であります。基本方針としては持続可能なまちづくりを進めていきたいと思っております。そのテーマとして確かな展望と地域力の発揮でございます。細かい話は町政執行方針の方で述べさせていただきましたが、その中でも重要な年という位置づけは財政健全化に向け、昨年からのプランの町民説明も行ってあります。このたび作成した白老町財政健全化プランは町民の生活に大きく影響を及ぼす内容となりますが、ここは行政と議会と一体となって白老町全体となって取り組んでいかなければならないというふうに思っております。このプランを遂行することによって確かな展望の中で、いつも言うのですが、アクセルとブレーキなのですが、財政健全化プランはブレーキでございまして、ただブレーキだけだととまってしまいますので、アクセルの部分はまちづくりの3つの方針で示させていただいております。ここは2020年の象徴空間を中心にまちづくりを進めていきたいと思っておりますし、地域力の発揮もいろいろな町民の方々と協力をしながら

ら進めていきたいと思っております。健全化プランがきちんと4月からスタートするという大事な年でもありますので、町民と一体となってこのプランどおりにまず財政を健全化して足元を揺るがないものにして前に進んでいきたいと決意をしております。

○議長（山本浩平君）　以上をもちまして、9番、吉谷一孝議員、会派かがやきの代表質問を終了いたします。